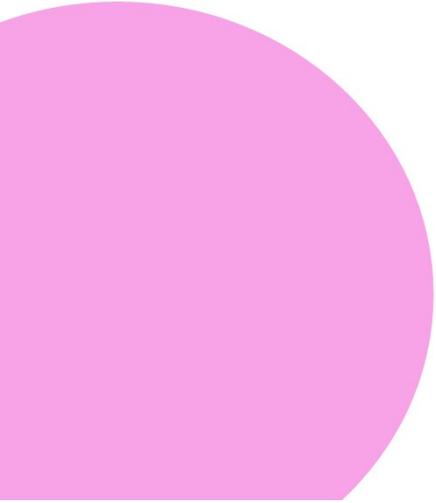
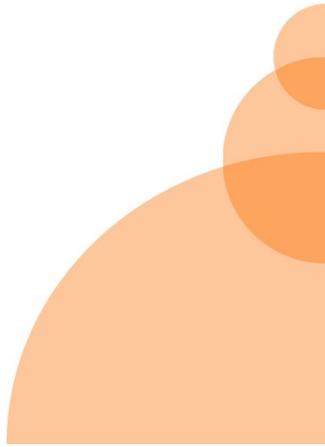


**令和6年度 京都市総合教育会議**

**ウェルビーイングの向上を目指して  
～未来社会を見据えて～**



**令和6年12月17日（火）**



# 本日の会議について

## ▶ 目的

先行き不透明で、将来の予測が困難な時代を迎え、子どもや社会のウェルビーイング向上のために、教育行政として何をすべきか。

未来の社会を展望しながら、公教育・生涯学習の果たすべき役割について議論・意見交換いただき、今後の教育施策に生かす。

# 1. これまでの振り返り ①本市の児童生徒数の推移

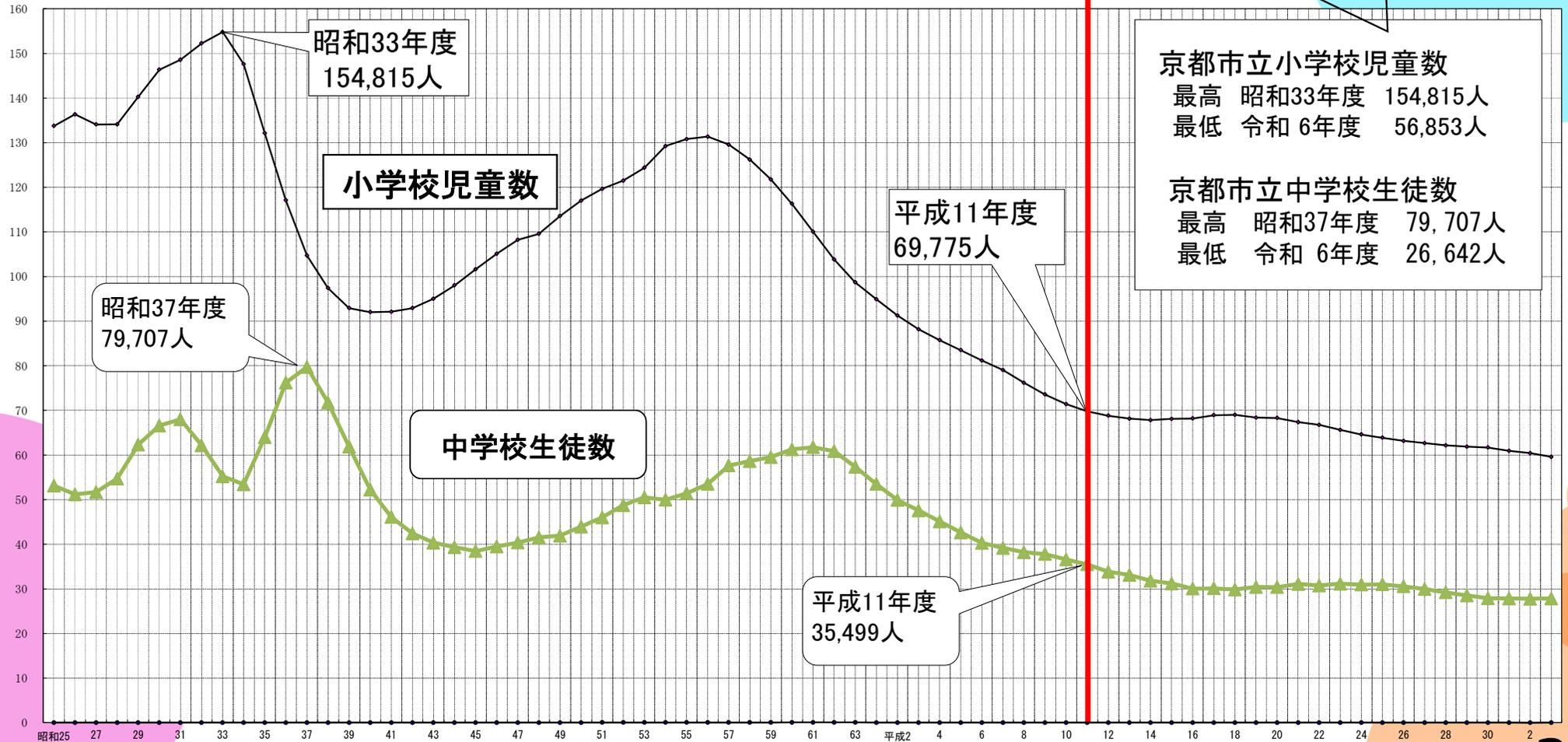
25年前（平成11年度）→

ここ10年平均（年あたり）

小：▲1.05%の減

中：▲1.36%の減

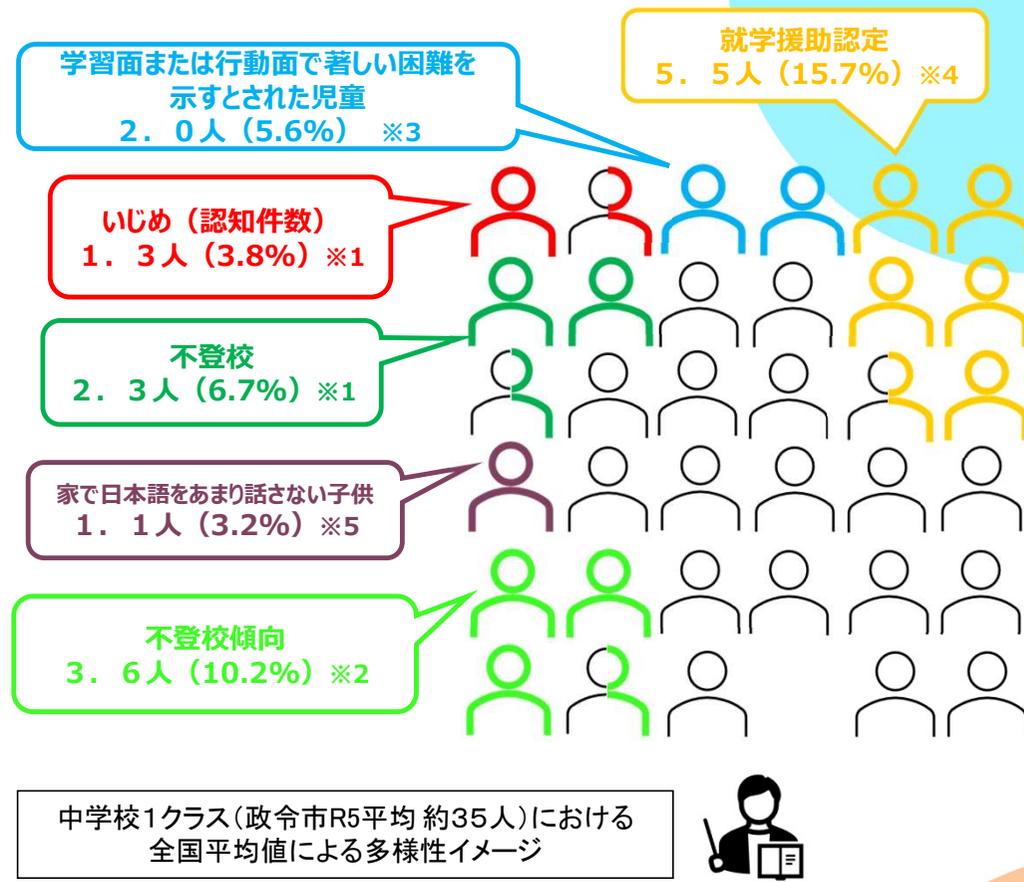
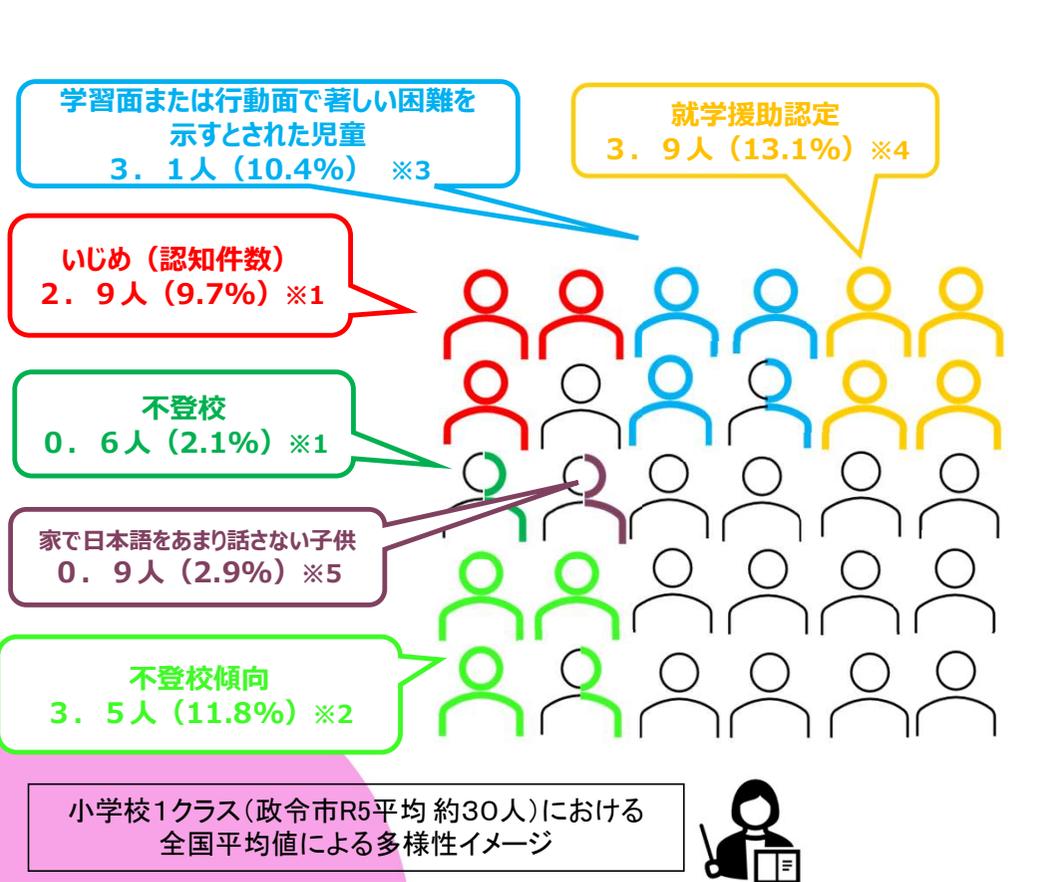
千人



京都市立小学校児童数  
最高 昭和33年度 154,815人  
最低 令和6年度 56,853人

京都市立中学校生徒数  
最高 昭和37年度 79,707人  
最低 令和6年度 26,642人

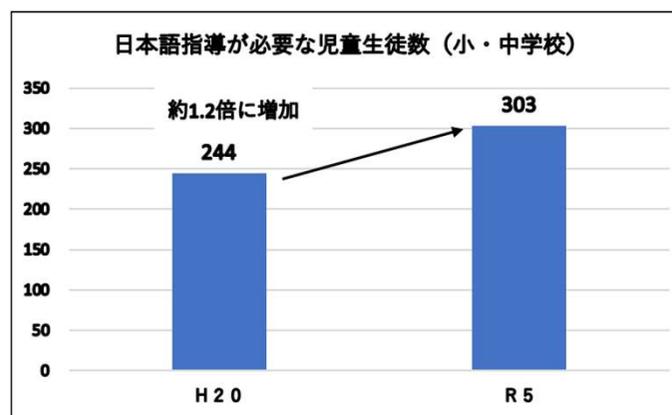
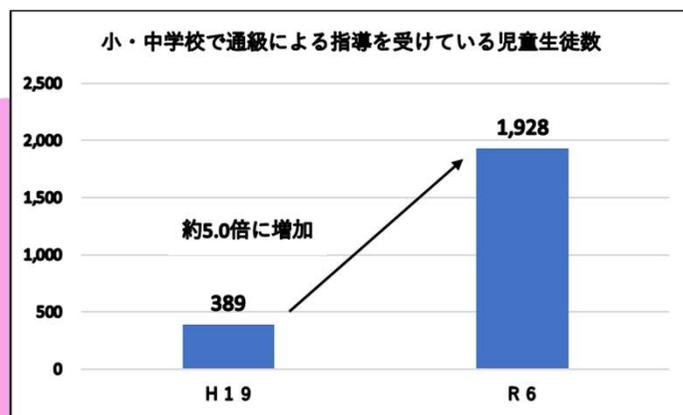
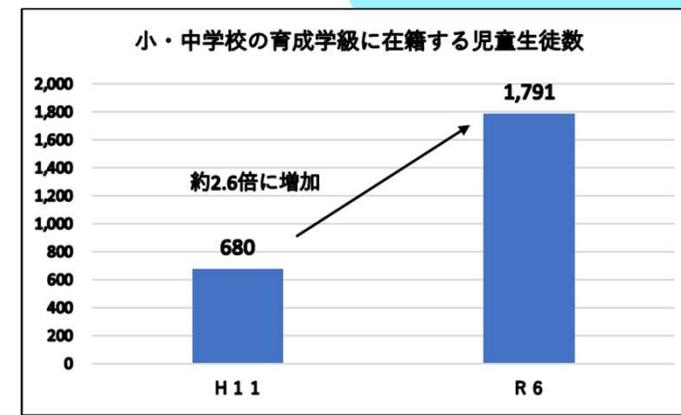
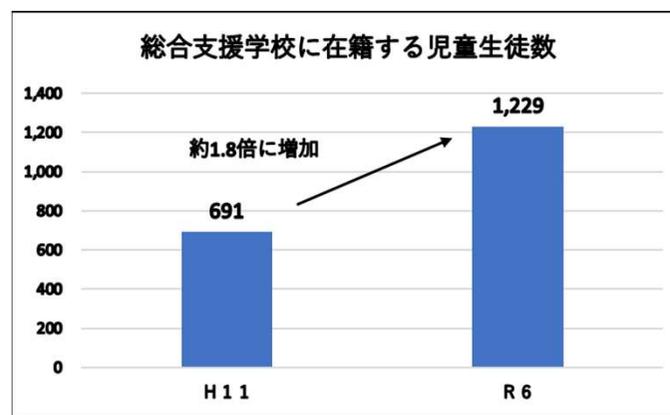
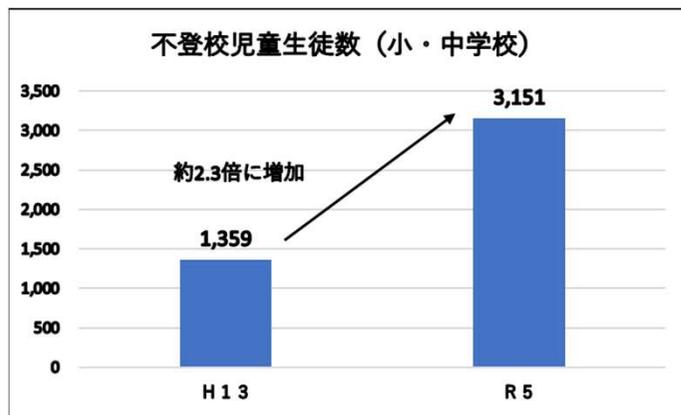
# 1. これまでの振り返り ②教育課題の多様化と背景



(出典) ※1 「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省)  
 ※2 「不登校傾向にある子どもの実態調査(2018)」(日本財団)  
 ※3 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査(令和4年)」(文部科学省)  
 ※4 「令和5年度就学援助実施状況等調査」(文部科学省) ※令和4年度実績  
 ※5 「令和3年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査」(文部科学省)「あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか」のうち「ときどき話す」「全く話さない」とした児童生徒の割合

# 1. これまでの振り返り ②教育課題の多様化と背景

本市における推移等



(その他)

◆暴力行為の発生件数（小・中・高）

R5:1,237件（全国108,987件）

◆いじめの認知件数

R5:3,100件（全国732,568件）

※共に増加傾向

⇒個別の指導計画を作成するなど一人ひとりに応じた支援が求められている。

# 1. これまでの振り返り ③本市教育の理念

➤ 「学校教育の重点」(※)の変遷から ※年度ごと及び中期的な重点取組をはじめとした学校教育の方針。H11は指導の重点

## 【平成11年度（25年前）】

最高目標：今を生き、次代を拓く力の育成－豊かな人権感覚を育み、個が生きる進路の実現を目指して－

・伝統等に紐づくキーワード：学校・家庭・地域の連携、「個」の尊重を目指す教育改革の実現、子どもたち一人一人の尊厳（人権）を尊重

・重点内容：総合的な学習の時間の試行、心の教育の充実、内・外に開かれた学校づくり、教職員の意識改革と保護者への働きかけ

## 【平成26年度（10年前）】

目指す子ども像：伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども

・伝統等に紐づくキーワード：一人一人の子どもを徹底的に大切にする本市教育の理念、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育改革、教育の根底「子ども自らが主体的に学ぶ」

・重点内容：つきたい力を明確にした言語活動、自律心と責任感の育成を目指した協働活動

## 【令和6年度（現在）】

目指す子ども像：伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども

・伝統等に紐づくキーワード：市民ぐるみ・地域ぐるみで一人一人の子どもを徹底的に大切にする教育、多様な子どもたちを誰一人取り残さない実践

・重視する視点：子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める

# 1. これまでの振り返り ③本市教育の理念

## ▶ 本市が目指す教育の在り方

### ★ 人格の完成と社会の形成者として必要な資質を備えた国民の育成

#### 「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」 (京都市教育理念)

◆ 子どもは多彩な能力や可能性がある一方で、個々に様々な課題も抱えている存在。

一人一人を徹底的に大切にする中で、子どもたちの良いところを伸ばし、課題を克服し、子どもたちの未来がその生まれ育った環境に左右されない社会を実現する。

#### 多様な学びの機会の確保

◆ 支援が必要な子どもへの教育・世界に勇躍する人材の育成

個別最適化された学びと、京都ならではの伝統文化体験や自然体験活動、探究的な活動等の対話的・協働的な学びとの融合

京都市の目指す子ども像

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

「京都ならではの教育」の充実へ

# 1. これまでの振り返り ④本市の先進的な教育実践～国制度の牽引的役割～

人的措置

## 少人数教育

H15～小1 35人学級  
H16～小2 35人学級  
H19～中3 30人学級  
⇒H23に小1が35人学級法制化、  
R3～小2以降が35人学級法制化  
(R7まで年次的に学年進行)

## 伝統文化教育

教育内容

H14～京都三大祭の見学 (幼)  
H28～全ての生徒が茶道 (高)  
R4～全ての児童が茶道 (小)  
全ての生徒が華道 (中)

仕組み

## 教員加配

R2～産前休職員に対する  
年度当初からの先行加配  
⇒R5～文科省による定数措置  
R6～欠員を見据えた年度当初からの加配  
(中教審でも必要性議論)

## 探究学習

H9堀川高校改革 - 探究科設置  
以降、探究を軸に特色を持たせた高校改革  
⇒R4～高校 新学習指導要領  
「総合的な探究の時間」導入

## 小中一貫教育

H16 小中一貫教育特区の認定  
(大宅中・陶化中ブロック)  
H23 全中学校区で小中一貫教  
育展開  
⇒H28「義務教育学校」制度  
創設  
(学校教育法改正)

## 学校運営協議会

H14 御所南小が文科省指定  
⇒H16 地教行法改正  
学校運営協議会制度化  
H16以降 順次設置  
H26 全小学校への設置完了  
⇒H29 地教行法改正  
学校運営協議会設置の  
努力義務

(不登校特例校)

## 学びの多様な学校 夜間中学校

H16 洛風中  
H19 洛友中 (昼間と夜間併設)  
⇒H29 教育機会確保法施行  
⇒R3 今後5年で全都道府県に  
夜間中学を1カ所設置方針

## 総合制・地域制の 支援学校

H16 総合制・地域制の支援  
学校へ移行  
⇒H19 学校教育法改正  
特別支援学校制度の  
創設

# 1. これまでの振り返り ⑤本市の児童生徒の学力と体力の推移

## <学力>

全国学力・学習状況調査結果

- 小：政令市4年連続1位／都道府県別の当てはめで初の1位相当
- 本成果は、私学等を除く公立学校のみ結果の集計

指定都市	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6
小学校	4位	1位	3位	1位	1位	1位	1位
中学校	10位	12位	12位	11位	8位	7位	8位

都道府県当てはめ	H19	H20	H28	R4	R5	R6
小学校	12位	11位	12位	4位	2位	1位
中学校	40位	39位	14位	12位	5位	7位

(参考) Q：学校に行くのは楽しいと思いますか (R6学テ調査)

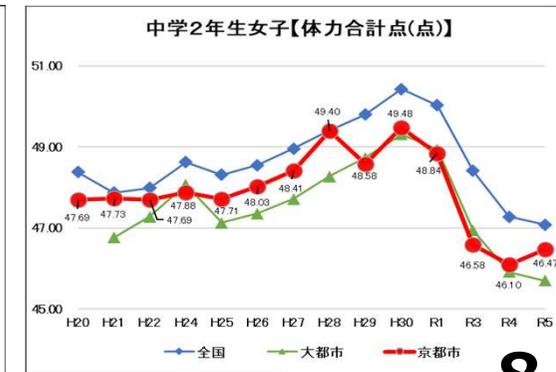
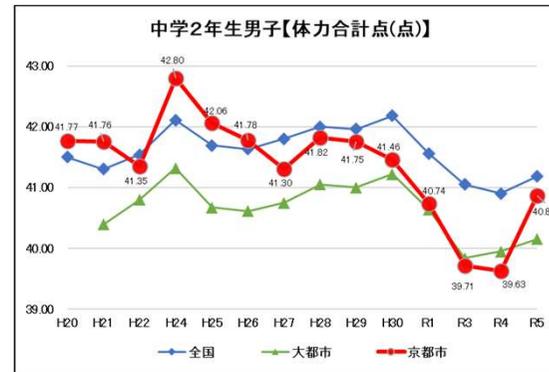
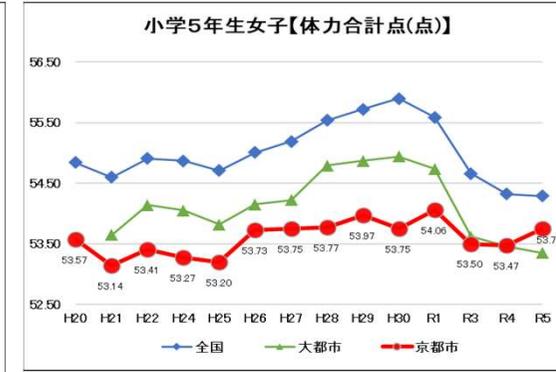
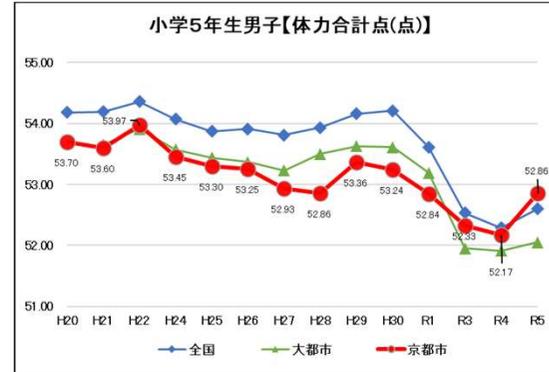
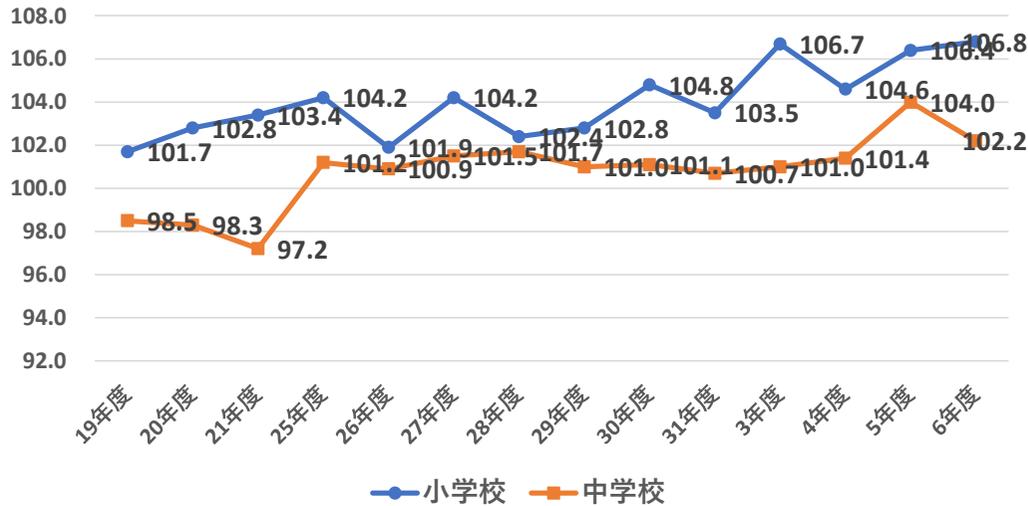
小学生：86.3% (全国：84.8%) 中学生：86.1% (全国：83.8%)

## <体力>

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

- 小学校：コロナ禍で落ち込んだが、男女ともR4からR5にかけて回復した。男子は調査開始後初めて全国平均を上回った。
- 中学校：コロナ禍で落ち込んだが、男女ともR4からR5にかけて回復した。男女とも全国平均には至っていない。

全教科合計の全国平均を100とした時の本市の値の推移

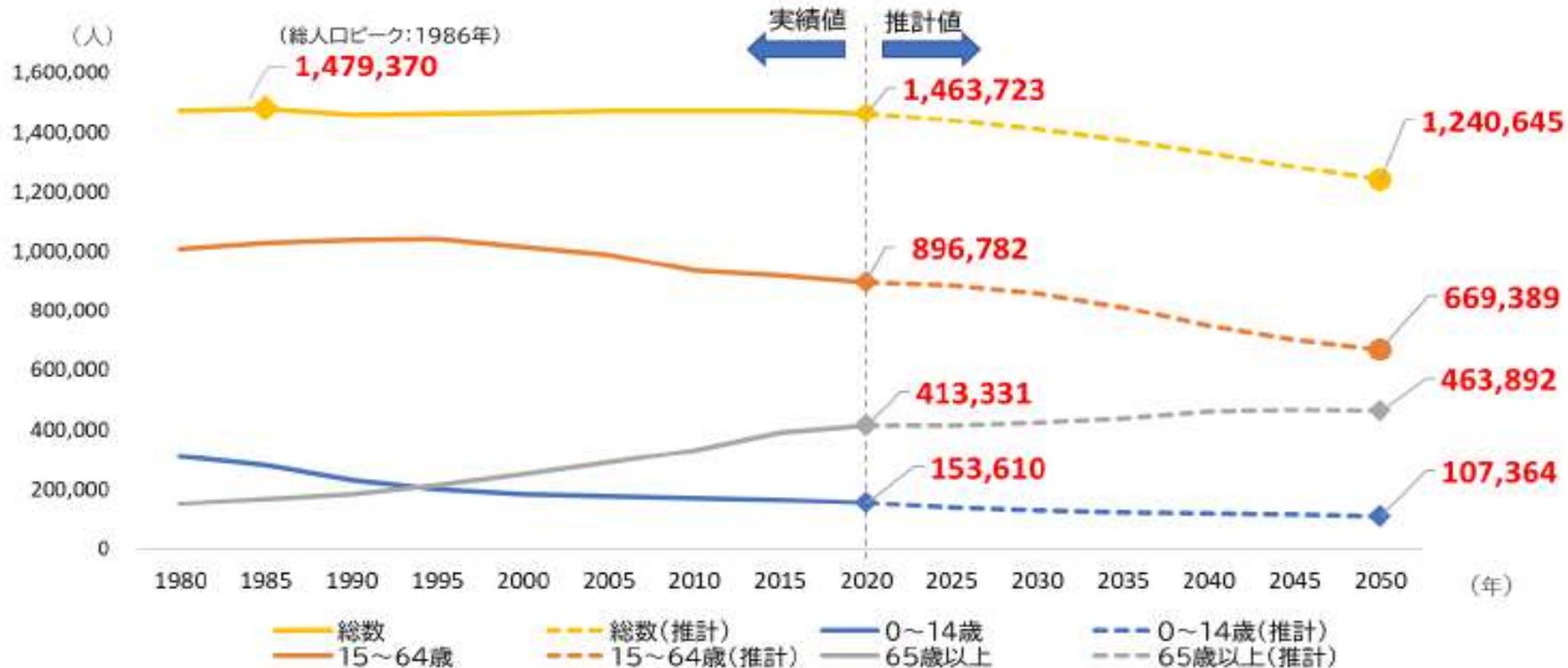


## 2. これからの社会 ①京都市の人口（年齢層別将来推計）

### 京都市の人口(年齢層別将来推計)

1986年の約148万人をピークとし、2016年に減少局面に突入。2050年には124万人まで減少する見込み。  
 また、少子高齢化の進展により、15～64歳の生産年齢人口は、1995年の104万人をピークに減少しており、2050年には67万人まで減少する見込み。

京都市の年齢層別人口及び将来推計

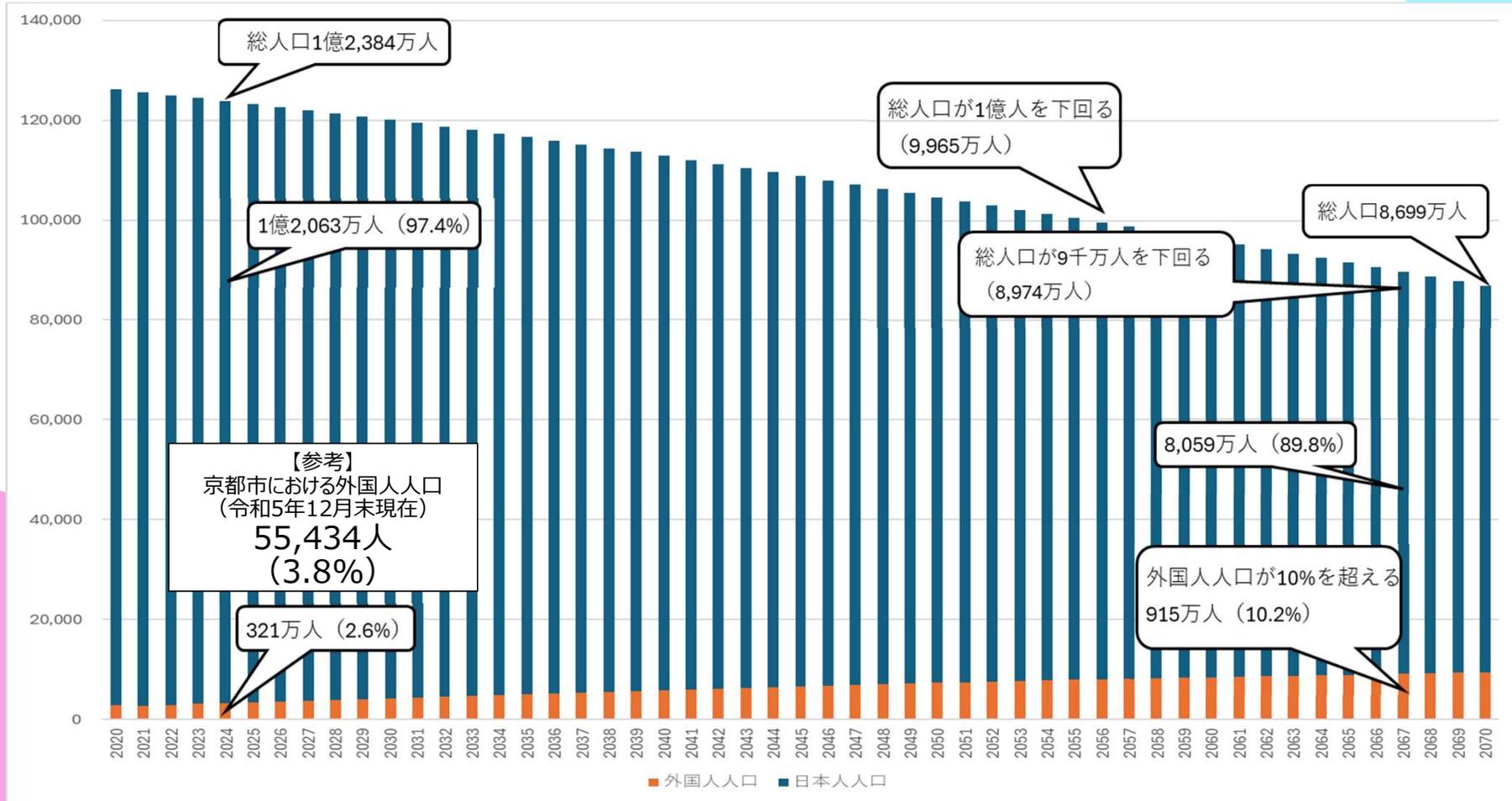


出典：2020年まで 国勢調査(総務省統計局)及び京都市推計人口  
 2025年以降 国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口(令和5(2023)年推計)

(出典)  
 第1回京都市総合  
 計画審議会資料  
 (令和6年10月9日開催)

## 2. これからの社会 ②日本の人口と外国人人口の推計

2056年には総人口が1億人を、2070年には8,700万人を下回り、2067年には外国人人口が総人口の10%を超える見込み。



(出典) ・「日本の将来推計人口(令和5年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

※推計値は出生中位(死亡中位)推計による。外国人を含む日本に3か月以上にわたって住んでいる、または住むことになっている総人口から、日本人人口を減じた数を外国人人口とした。

・「京都市における外国籍の住民基本台帳登録者数(国籍別、令和5年12月末現在)」(京都市)

※割合は、京都市統計ポータル「推計人口 例月データ令和5(2023)年12月1日現在」の人口総数から、55,434人を減じた数字から算出。

## 2. これからの社会 ③子どもたちが想像する未来の世界は（小学生）

Q：20年後の未来にあってほしいモノ、できるようになってほしいコトは？ ※（ ）内は理由

### 生活の質や利便性の向上

- ・話したことを書いてくれるペン  
（目が見えない人が、耳が聞こえない人に思いを伝えられるから）
- ・ドローンとA Iが商品を届けるサービス  
（人がわざわざ届けに行かなくてもいいし、充電がすぐに終わって働けるから）

### 補助・支援

- ・重いものを持てるドローン（人が困っていたら助けができるから）
- ・身体を動かさなくてもスポーツができる装置  
（障害者でもスポーツに取り組めるから）
- ・A Iを使って会話と介護をするロボット  
（AIを入れて喋るロボットにしたら介護される人が楽しいと思うから）

### 体験・旅行

- ・目の前で試合を見ているような感じになるVRゴーグル  
（家から出られない時でも見れるから）
- ・旅行ができるVRゴーグル  
（日が合わなかったり、外に出ることができなかつたりする人でも旅行が楽しめるから）

### 防犯

- ・警備A Iドローン、ロボット（セキュリティを万能にしたいから）

（参照）京都まなびの街生き方探究館「わくわくWORK LAND」 児童発表資料より

### 健康・環境

- ・認知症がなくなる薬（家族に自分のことを忘れて欲しくないから）
- ・体の中の病気を調べてくれるA I  
（少しでも多くの人を助けられると思うから）

### コミュニケーション

- ・動物と話せる機械（動物は話せないから）
- ・外国の人が言っていることがわかるイヤホン  
（外国の言葉が分からない人に役立つから）

### 乗り物

- ・浮いて飛ぶ電気自動車  
（低すぎると事故が起き、高すぎると鳥にぶつかるので間を飛び、電気なので地球にやさしいから）
- ・自動運転技術の普及  
（事故の可能性が低くなるから、高齢者も簡単に移動できるから）

### 移動

- ・行きたい場所に一瞬で行ける機械  
（家が学校から遠い人が、急な用事があっても絶対に間に合うようにしたいから）

その他 ・寝るときに夢を選べる装置 ・かわいいA I犬のロボット

### 3. ウェルビーイングについて

#### ➤ ウェルビーイングとは

- ◆ **身体的・精神的・社会的に良い状態にあることを言い、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。**
- ◆ **多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態であることも含む包括的な概念。**

#### ➤ 日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、**我が国**においては、**自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「協和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められる。**

(出典)「中央教育審議会・次期教育振興基本計画について(答申) 参考資料・データ集(令和5年3月8日)」(文部科学省)

### 3. ウェルビーイングについて

#### ▶ 子どものウェルビーイングに関する国際的な比較調査

国際的な比較調査では、日本の子どもたちのウェルビーイングが他国に比べ低い傾向にあると報告されることがある。

##### <国際的な比較調査の例>

「OECD こどものウェルビーイングデータセット」における日本の掲載状況

指標 (Indicator)	OECD平均値	日本
自己効力感があるこどもの割合	84.0%	58.6%
自分の人生には意味や目的があると考えるこどもの割合	68.5%	55.7%
自分の人生全体に満足度が高いと答えたこどもの割合	33.8%	19.8%

(出典) 令和5年度こども家庭庁委託調査「諸外国等におけるこどものウェルビーイングの概念と測定方法に関する調査報告書」2024年3月 (EM・アール・アイリサーチアソシエイツ) 34項 図表30より一部抜粋

「unicef イノチェンティ レポートカード16」子どもの幸福度の結果

<総合順位は20位>	
分野	指標
精神的幸福度 (37位)	生活満足度が高い15歳の割合
	15~19歳の自殺率
身体的健康 (1位)	5~14歳の死亡率
	5~19歳の過体重/肥満の割合
スキル (27位)	数学・読解力で基礎的習熟度に達している15歳の割合
	社会的スキルを身につけている15歳の割合

※順位は38か国中の順位。

(出典) 「イノチェンティ レポートカード16 子どもたちに影響する世界先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か」2021年2月 (unicef) i 項 子どもの幸福度の結果：日本の分野別順位

### 3. ウェルビーイングについて

#### ➤ 全国学力・学習状況調査質問紙によるウェルビーイングに関する調査結果

※ %は肯定的な回答の割合

獲得的要素	【自分には、よいところがあると思いますか】	
	小：83.5% (全国：84.1%)	中：83.5% (全国：83.3%)
	【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか】	
	小：90.3% (全国：89.9%)	中：90.5% (全国：90.4%)
	【将来の夢や目標を持っていますか】	
	小：84.1% (全国：82.4%)	中：65.4% (全国：66.3%)
	【学校に行くのは楽しいと思いますか】	
小：86.3% (全国：84.8%)	中：86.1% (全国：83.8%)	
協調的要素	【普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか】	
	小：92.3% (全国：91.7%)	中：92.0% (全国：89.8%)
	【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】	
	小：96.2% (全国：95.9%)	中：95.8% (全国：95.2%)
協調的要素	【地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか】	
	小：84.5% (全国：83.5%)	中：75.8% (全国：76.1%)

(考察)

- ◆ 個人が獲得・達成する能力や状態に基づく**獲得的要素**、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの**協調的要素**に基づくウェルビーイングとも、およそ8割以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。また、京都市は全国と比べ、数値が高い傾向にある。
- ◆ 獲得的要素については、**中学生段階に至ると「将来の夢や目標を持つ」子どもの割合が低くなること**、協調的要素について、「人の役に立つ人間になりたい」と思う子どもの割合に比べ、「**地域や社会をよくするために何かしてみたい**」と思う子どもの割合は低く、**子どもの思いが公共性にまで至っていない**とも考察できる。教育活動を通じて、これらの指標を上げていくことが求められる。

(参考) 令和6年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査

### 3. ウェルビーイングについて

#### ▶ 本市が目指すまちの姿 ※

「まち中に夢中になれるものが満ちあふれ、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、  
支え合い、生きがいを持って活躍できるウェルビーイングなまち」

すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市京都」の実現

#### ▶ 子どもたちのウェルビーイング向上に向けて

#### ◆ 教師をはじめとする学校全体のウェルビーイング向上を推進

※現行の行財政改革計画を前倒しで改定し、令和9年度までに取り組む政策等の今後の方針を示す「新京都戦略（骨子）」に記載。  
パブリックコメント等を経て、令和6年度中に策定。

## 4. 問題提起

- 教育課題が複雑化・多様化する中、一人一人のウェルビーイングの向上に向け、取り組むべきことは何か。
- 将来予測が困難な時代に、一人一人の主体性や創造力をはぐくみ、自己実現を目指すために必要なことは何か。
- 未来社会を見据え、これからすべきこと、種をまいておかないといけないことは何か。
- 少子化による学校数の減少やデジタルテクノロジーの進歩等により、学校が果たすべき機能や役割はどうなっていくのか。
- すべての人に「居場所」と「出番」があるまちの実現に向け、生涯学習の果たすべき役割は。